

2025 年 10 月 27 日

各位

会 社 名 Chordia Therapeutics 株式会社
代 表 者 名 代表取締役 三宅 洋
 (コード番号：190A 東証グロース市場)
問 合 せ 先 IR マネジャー 吉良 亜実
 TEL : 03-6661-9543
 MAIL : ir@chorditherapeutics.com

創薬エコシステムの発展に向けた取り組みについて

Chordia Therapeutics 株式会社（本社：神奈川県藤沢市、代表取締役：三宅洋）は、創薬研究の推進を通じて、バイオセクター全体のエコシステム発展に貢献することを目指しております。

このたび、その取り組みの一環として以下の 2 件をお知らせいたします。

1. 新生キャピタルパートナーズ公式 note に記事が掲載

新生キャピタルパートナーズ株式会社公式 note に、代表取締役三宅が寄稿した「抗がん剤開発の最前線：創薬ベンチャーが挑むイノベーションとエコシステム」が掲載されました。

記事では、がん治療薬開発における当社の挑戦や、創薬ベンチャーとしての独自の戦略、製薬会社・アカデミア・投資家との協業を通じたライフサイエンスエコシステム形成への想いが紹介されています。

三宅は、記事の中で次のように述べています。

「創薬ベンチャーにとって製薬会社は競合ではなく、協業のパートナーです。
私たちは日本発の新しいがん治療薬を世界へ届けるとともに、
創薬エコシステムの一員として持続的なイノベーションを生み出していきたいと考えています。」

当社は RNA スプライシングを標的とした新規抗がん剤「rogocekib」の研究開発を進めており、日本の創薬ベンチャーとして、がん治療の新たな可能性を切り拓くことを目指しています。

掲載記事 URL : https://note.com/quick_ruff1785/n/n0c66efa04e71

2. 「アントレプレナーシップ推進大使」に就任

大使事業公式サイトにおいて、当社 CSO（最高科学責任者）である森下大輔が「派遣可能なアントレプレナーシップ推進大使」に就任したことが紹介されました。森下はこれまで、大学発バイオベンチャーの事業推進やスタートアップ支援に携わっており、本活動を通じて、アカデミアと産業界をつなぐエコシステム形成に貢献してまいります。

大使事業 HP：<https://www.mext.go.jp/entrepreneurship-education/>

Chordia Therapeutics 株式会社について

当社は、臨床開発品を擁するがん領域専門の研究開発型バイオベンチャーとして、神奈川県藤沢市を本社として活動しています。私たちのリードパイプラインである CLK 阻害薬 rogocekib (CTX-712) は、米国での第 1/2 相試験を進行中です。rogocekib は、がんの脆弱性をターゲットにしており、有望な治療薬としての可能性が期待されています。また、当社は、リードパイプラインの rogocekib、MALT1 阻害薬 CTX-177 に加え、CDK12 阻害薬 CTX-439、GCN2 阻害薬など、複数のパイプラインの研究開発に取り組んでいます。

詳細は、当社ウェブサイト (<https://www.chorditherapeutics.com/>) をご覧ください。